

2023年 草木染教室報告

1. 開催日時：2023年9月24日（日）
13:00～15:00
2. 場所：枚岡公園事務所うら 森の工作室
3. 参加者：11人（大人7人、子ども4人）
4. スタッフ：黒羽（講師）、端、石田、森口、森田、米田、柴山、堺井、三木、草竹、今岡、八里（12人）

9月24日（日）森の工作室にて、草木染教室が実施されました。今回は杉皮を使って布を染めます。開始に先立って、朝9:00から講師の黒羽さんはじめ数人のスタッフで準備作業。



3kgの杉皮をよく洗い適当な長さに裁断し、3つの鍋で煮だします。大量の杉皮ですがしっかりした色を出すにはかなり長時間の煮沸が必要です。

やがて、正午も過ぎて参加者の方たちが集まり始めました。

代表のあいさつ、スタッフ一人一人の簡単な自己紹介のあと、講師の黒羽さんから説明を聞きます。染め色がより引き立つように模様を入れるために輪ゴムやビー玉などを使って布をしぼったり、割り箸で布を強くはさんだりします。染め液が入らない所が白抜きになるのですがどのようにしぼったりはさんだりするとどんな模様ができるのかは、講師の説明で頭で理解はできても、出来上がりがどうなるか判らないところがとても面白いです。



見本の作品も参考にしながらそれぞれ出来上がりの模様を思い浮かべて布をしぼったりはさんだりします。

布の用意ができたなら、いよいよコンロの火にかけた染め液に布をひたし沈めていきます。



沈めるときに布の間に空気が入るとそこは染め液に浸らず染まらなくなるので、慎重に空気を追い出しながら布を沈めていきます。

しっかり染めるにはある程度時間をかけて染め液で煮る必要があります、けっこう時間がかかりました。つぎに媒染をしました。

媒染とは金属イオンなどの働きでよく染まるようにしたり、染め色を変化させたりすることだそうです。今回は鉄媒染をしました。水に鉄を含む原液を溶いて媒染液を作り、そこへ染め液から引き上げた布を浸します。するとそれまでは薄い茶色に染まっていた布が、見る見る薄いグレーに変化します。



最後に、引き上げた布の輪ゴムや割り箸を外します。

どんな模様ができたか、一番楽しい瞬間ではないでしょうか。

水で染め液や媒染液をよく洗いよくしぼって、布を広げてみます。



模様のおもしろさ、染め色の不思議さなど、広げて出来上がりを確かめます。

杉皮で染め媒染しなかった布はピンクがかかった薄い茶色。媒染をした布は暖かいグレーに染まりました。

ほとんどは木綿布でしたが麻を染めた方もいて、布地の種類によっても微妙に染まり方が変わるのも不思議です。

それにしても染め色の優しい色合いには思わず見入ってしまいます。
人工の染料の強い色合いに慣れた目には、草木染の色合いはホッとするものがあります。

染めた布は持ち帰ってアイロンがけをすると色がより定着するそうです。
また酸やアルカリで変色するそうなので注意が必要だそうです。

他にもいろいろな物が草木染に使えるそうで、玉ねぎの皮、栗の皮やイガ、ドングリ、クサギ…
などなど。
参加者のみなさんの感想では、ほぼ思った通りの模様染まった、面白かった、また参加したいなど、
おおむね好評でした。この教室をきっかけに参加者のみなさんがいろんなもので草木染を楽しまれるよ
うになればいいなあ、と思いました。

(写真：石田さん、 文責：森口)